

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 6 月 14 日現在

機関番号：24506

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2014～2016

課題番号：26360018

研究課題名(和文)カリブ海地域華僑の再移民に関する移動とコミュニティの史的研究

研究課題名(英文)A Historical Study of the Transmigration, Mobility and Community Formation of the Chinese in the Caribbean

研究代表者

園田 節子 (Sonoda, Setsuko)

兵庫県立大学・経済学部・教授

研究者番号：60367133

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,500,000円

研究成果の概要(和文)：1930年代から1960年代までのカリブ海地域の華僑の研究を通して、いかなる生活戦略に基づいて再移民を選択するのか、その結果いかなる移動圏を構成しているか、移動者の論理を歴史的に検討した研究である。北米、台湾、イギリス、カリブ海地域で史料を調査収集し、再移民のピークは日中戦争期と1965年アメリカの移民法改正時に生じ、同じ旧英領植民地あるいは同じ英語圏へと行われたこと、そしてトリニダードの現地華僑が、イギリス式教育で身につけた英語や文化とともに、中国国民党の政治接近をも有利に用いながら、第二次大戦期と冷戦期の国際政治社会の中で生き抜く姿を論じた。成果は国内外で発表、活字化した。

研究成果の概要(英文)：This historical study analyzes the logics and patterns of the migrants, especially how and where they re-migrate to other places with their own life strategies or ambitions, through the case of the Chinese immigrant community in Trinidad, British West Indies, from the 1930s to the 1960s. Based on the archival researches in North America, Taiwan, Britain and the Caribbean region, this study reveals two peaks of the re-migration of the Caribbean Chinese occurred during the Sino-Japanese War of 1937-45 and after the amendment of the Immigration Law of the US in 1965. They re-migrated to/within the Anglophone countries with the colonial past of British Empire. Also this study argues that the Chinese Trinidadians who educated in the British educational system took advantage of political approaches from the Chinese Nationalist Party in China and later Taiwan during the WWII and the Cold War period. The research outcomes of this study have presented and published in Japan and overseas.

研究分野：地域研究

キーワード：華僑 カリブ海地域 僑務 再移民 冷戦 ひとの国際移動 華人 陳友仁

1. 研究開始当初の背景

ひとの国際移動や移民研究は近年特に活性化しているが、その研究潮流の中、未着手のテーマが再移民である。平成 12-13 年度に特別研究員奨励費採択課題にて南北アメリカ各地で史料を渉猟し、19 世紀後半に南北アメリカに形成された華僑社会のメカニズムを実証研究したが、史料に現地華商の移動性の高さが表れていた。この研究は平成 21 年に単著出版し、その一部で、サンフランシスコからカナダやキューバに転航した「サンフランシスコ転航華商」が存在することに触れ、彼らがもともと広州府や香港などの比較的裕福で先進的な地域で培った商売経験をサンフランシスコで展開し、さらに再移民した華僑社会で、類似の経済的文化的空間を作ったと論じて転航の重要性に言及した。次いで平成 22-24 年度の挑戦的萌芽研究においてトリニダード・トバゴで史料を調査した際に、現地華僑が 1930-80 年の間に発行した中国語新聞や現地英字紙の関連記事から、トリニダード華僑が高い移動性を有していることに着目した。転航、転住、re-migration、transmigration と表現される再移民は、一度移住した土地を何らかの理由で離れ、出身地や父祖の地へ戻ることなく別の遠隔地にて生活を再開する移動パターンを指し、移民一世が複数回おこなう場合も世代を経て二世三世が別地へ移動する場合も含む。国内外の研究において再移民は、論考の一部や移民個人の自伝や回想録で部分的に言及されることが多いが、それに着目し焦点を当てた専門研究成果は国内外に殆どなかったため、本研究にて多面的な分析を行うことにした。

2. 研究の目的

本研究計画は 1850 年代から 1960 年代までのカリブ海地域に生きる華僑・華人の事例研究を通して、いかなるミクロそしてマクロな要因を背景に別地へ再移民するのか、いかなる生活戦略に基づいて再移民を選択するのか、その結果いかなるグローバルな移動圏を構成しているのか、移動者の論理を歴史的に検討することを全体的構想とするものである。具体的目的は、移動者や移民が世代に亘って維持する生活戦略や経済メカニズムを、移動の圏域、越境者ネットワーク、移民のビジネス展開、中国の政治的影響などに着目しながら実証研究し、移民史研究に再移民という新たな視座を指摘・提供することにある。本研究では、明らかにする 3 つのポイントを設定した。

(1) 1850 年代から 1960 年代半ばまでの時代幅で、カリブ海地域の中国系住民の再移民について、特にその出入国の動きが活性化するのはどの国家やどの地域のどのような動きが誘因となっているか、原因と時期を特定する。

(2) カリブ海地域で移動する中国系住民の

向かう先はどこか、現地で収集した史料からその目的地を抽出し、移動のパターンを描き出す。どのような地域を再移民先に選ぶか、「移動圏」とも呼び得る圏域を明らかにする。
(3) 越境者が持つネットワークや、華商の営業の過程からビジネスをどのように展開しようとしたかなどを通して、再移民という戦略を浮き彫りにする。カリブ海地域の華僑は、華僑団体や国民党支部を通してもたらされる中国の政治的影響と無関係ではなく、現地コミュニティに創出された中国政府の政治的力場と再移民との関連も考究する。

3. 研究の方法

本研究課題の具体的目的に沿って、3 年計画を組んだ。関連する二次文献の収集および英中両政府側の公文書分析を通して再移民の歴史理解を俯瞰的に得て、現地華僑の記録した中国語史料の発掘と調査収集、および現地中国系コミュニティ関係者のインタビュー記録を得て、再移民側の論理と戦略をコミュニティ事情から解明する。調査中、再移民に関する個人資料や地域間交易・貿易業に携わり移動性の高い華商にはとりわけ着目する。また議論の共有と深化を図るため、国内外の関連学会や研究会で随時口頭発表し、研究の方向性や議論の指針とする。成果は、研究会や学会で発表すると同時に学術・民間両領域での活字発表をおこなう。

初年度の研究方法は、カリブ海地域の中国移民や華人に関して国内からアクセスと購入が可能な関係研究書を渉猟し、関連研究書籍を充実させ、本格的な現地調査に備え、史料については、中華民国ならびに旧宗主国のイギリスの政府側公文書に収録された関連史料を収集し、現地の華僑コミュニティについての情報を俯瞰的視座から得ていく、と計画した。またカリブ海地域の華僑研究についての現状を、関連国際学会にて情報収集して将来的な現地調査に備えた。

第 2 年度には、国内外で中華民国側政府公文書の関連文献の収集を行うとした。この時、移民個人の自伝や回想録あるいは地域間交易・貿易業に携わる華商の文献資料が入手可能な場合、優先的に収集するよう方針を立てた。さらに先行研究が少なくかつ領域横断的なテーマであるため、ラテンアメリカやアジア関係の学会・研究会における口頭発表を積極的におこない、専門の意見批判を得て研究調査の方向性や議論を発展させるよう計画するとともに、日本語論文を執筆・投稿し、英語論文の執筆を開始することとした。

最終年度には、現地史料の調査収集を補足的におこなうと同時に、研究のアウトプットに作業をシフトするよう位置付けた。そのなかで学会・研究会における口頭発表を継続しつつ、日本語論文のみならず英語圏の学術雑誌への英文論文の投稿と掲載活動を継続するとの計画を立てた。

4. 研究成果

(1) 先行研究におけるカリブ海地域の中国移民研究は19世紀後半期の研究が充実している反面、1920年代以降についての研究がほぼ皆無であった。現地中国移民はインド人移民との競合に敗れた関係で、早くも1870年代には農業領域から撤退し、商業領域に進出したことで集団としての社会的上昇が早く、このため先行研究では同化と西洋化が強調されてきた。本研究では、史料収集の過程で、20世紀カリブ海地域の中国移民の越境性について分析するには、再移民の実態とともに、中国との頻繁な往復移動や政治的紐帯を華僑がカリブ海地域現地で築いた社会的地位と合わせて考える必要があるとの見解を得、1930年代から1960年代のカリブ海地域において中国人人口が最も多かったトリニダード、ジャマイカ、ガイアナの3か国に焦点を当てて関係資料を集めて分析した。その結果、トリニダードが中華民国政府のカリブ海地域華僑政策の拠点としてまとまった史料があり、重要な展開がみられることが分かった。

(2) よって研究は、トリニダード、ジャマイカ、ガイアナ3か国でも特にトリニダードを中心に進めた。カリブ海地域の中国系住民の再移民が活性化する時期については、トリニダード、ジャマイカ、ガイアナの複数の現地新聞のうちトリニダードの *Trinidad Guardian* 紙に1935年から1939年の間掲載された中国語ニュースページを分析し、まずは1930年代初めの満州事変から1939年ナチスドイツのポーランド侵入による第二次世界大戦開戦までの間であること、そして中国国民党僑務委員会発行の『僑務報』1956年から66年分の分析と1960年代にトリニダードで発行された現地華僑新聞『僑声報』、『自立報』、『正気報』の分析、ならびに中央研究院近代史研究所の外務部档案にある南北アメリカの僑務関連史料から、次いで1965年のアメリカの移民法改正後であることを明らかにした。再移民はこの2つの時期が際立っていたのだが、*Trinidad Guardian* 紙の現地華僑華人コミュニティニュース欄を綿密に分析すると、カリブ海地域の同じ英領西インド諸島間としてトリニダード、ガイアナ、ジャマイカ、そしてイギリスが外交権と憲法改廃権を持つカナダ、さらに宗主国イギリス、加えて同じ英語圏のアメリカへは、ビジネスや留学、結婚、旅行による移動や再移民がおおむね恒常的に行われていたことが明らかになった。

(3) 研究の過程で予期していなかった新たな事実は、「現地化」「西洋化」したと先行研究で強調されるカリブ海地域華僑の中国との紐帯の強さであった。現地華僑はイギリス式教育の恩恵を受けて奨学金を取得し、カリブ海地域あるいはイギリスで高等教育を受け、イギリス植民地史で言われるいわゆる植民地エリートの典型を踏襲していた。一方で、1930年代時点のトリニダードの中国系住民

はイギリス式教育が子弟にもたらす将来的恩恵を十分理解しながら、大学教育を中国で受けさせることを好む家庭が極めて多かった。彼らは香港やマカオ、広東省の省都広州で子弟を学ばせ、大学終了後にカリブ海地域に戻し、高等専門職に就かせた。日中戦争期、こうした若い知識人たちは、留学先の中国で中国への親近感と愛国心を育んだ後、カリブ海地域への帰国時に最新情報を携えて戻り、第一言語である英語を駆使し華僑コミュニティのみならず広く現地社会に英語を用い、新聞などの媒体を通じて中国の抗日戦争への支持を訴えていた。

(4) トリニダード華僑の現地と中国双方との関わりが単純な二極化ではなかったことをこの例が示すように、現地華僑コミュニティは一枚岩ではなく、また個人もが複数の政治・経済勢力との協力関係を取り結んでいた。中国の抗日戦争への協力呼びかけが、トリニダード華僑で中華民国外交部長を務め、反蒋介石で知られるコスモポリタンの陳友仁とその人脈に連なる知識人 英米の中国通研究者やジャーナリスト、外交官、社会主義者、そしてアメリカ留学経験を持つ中国人知識人によってなされており、当時育ちつつあった華僑二世・三世の政治姿勢やキャリアに影響を及ぼしていた。一方、蒋介石も現地華僑に接近した。スタンフォード大学フーバー研究所史料館が所蔵する国民党史料コレクションからは蒋介石によってトリニダード・トバゴ現地に直接派遣され、カリブ海地域の僑務責任者になった陳家賢の日記と自伝草稿が見つかり、そこには現地の若い有力華商のうち中国生まれの世代には、陳家賢が中心になって新しく設立した抗日運動組織や華僑学校、国民党支部、華僑新聞など社会インフラの役員職が準備され、後に民国から叙勲されるなどして中国国民党と密接な関係を築いたことが表れていた。現地生まれの「西洋化」した華僑商人にも、中華民国名誉領事に任命されて、カリブ海地域の僑務に助力し、中国との政治的関係を持つ者が認められた。

(5) 1950年代から1960年代における現地華僑の生活やキャリア形成、経済活動にみられる越境性や国際移動を分析する史料として、まずイギリス側の史料からカリブ海現地政府の姿勢を明らかにすべく、イギリス議会文書をオックスフォード大学で集中的に入手した他、国立公文書館で英国植民省文書と外務省文書の中の関連する史料を収集するとともに、大英図書館所蔵のガイアナ華僑の自伝も収集した。また東南アジア華僑に対する国民党とイギリスの政策研究も参照して、英領植民地の華僑政策の比較研究の材料にした。カリブ海地域で共産主義に共鳴するアフリカ系知識人たちの活動が活性化し、彼らが国際移動するうごきを受けて、トリニダード、ジャマイカ、ガイアナ3か国の総督もまた中国共産党の指導を受けた共産主義者が

華僑コミュニティに入る可能性の高まりを議論した。華僑の入国管理に加えて華僑コミュニティにエージェントを派遣する案も出たが、3か国の総督間での議論のやり取りは反共イデオロギーに基づいて共産主義者の取り締まりを進めるべきとする意見と、国内の一エスニック集団として華僑集団を尊重し擁護すべしとする意見の間での折り合いが長くつかず、反共主義に基づく華僑政策は東南アジアに比べ弱かった。一方、現地華僑社会そのものは中国国民党の強い政治的影響下にあった。親台湾派と親中国派の政治抗争は、トリニダートの華僑社会にも生じ、前者の勢力が強かった。冷戦中、華僑社会内部における中国共産党との支持者獲得競争の中で、台湾の中国国民党は同じ資本主義陣営に属する国家で冷戦構造を追い風に、華僑社会における影響力を確立しようとしていた。(6)研究の公開については、国内では華僑研究や中国研究、ラテンアメリカ研究の専門家が集まる研究会として、京都大学人文科学研究所、上智大学イベロアメリカ研究所、大阪大学歴史教育研究会や神戸華僑華人研究会で研究報告をすると同時に日本国内で開催された国際学会や学会年次大会の場でカリブ海地域の華僑研究の事例を通して、再移民や越境性研究の重要性を指摘した提言や報告をおこなった。国外では、カナダやパナマ、イギリスを会場とする国際学会で実証研究の成果を英語で発信し、ラテンアメリカ研究や華僑研究の専門家から広く領域横断的な批判やコメント、評価を得た。またオックスフォード大学とシェフィールド大学のセミナーで報告の機会を得て、イギリス植民地研究の研究者や院生からの助言や批判を得て、研究の質を向上させた。本研究の期間中に実現した活字化については、商業出版する歴史学叢書で担当した1章分でカリブ海地域の華僑の事例を通して再移民研究の重要性と可能性を議論し、入稿を済ませ出版を待っている。また日本華僑華人学会の設立10周年記念大会で本研究成果に触れ、同学会の学会誌で活字化されるとともに、国立民族学博物館の英語論文誌に旧英領植民地構造内の華僑華人の社会的位置とその活動について論じた英語論文を掲載した。その他、中国と日本の華僑華人関連書籍や学術雑誌、紀要に、長短の華僑華人史の包括的論考を執筆し、その中で本研究の成果として政治の越境についての議論を含めた。また年鑑の世界各地の華僑華人の動向報告や事典項目計4編に本研究内容を反映させ、より包括的な華僑華人考を執筆した。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計5件)

園田節子、華人全般 近現代の華人の

遠隔移動にみる制度・国家・越境性、永原陽子編著『MINERVA 世界史叢書 人々がつなぐ世界史』、査読有り、4巻、掲載決定 2017年出版予定

SONODA, Setsuko, History of Raising Self-Awareness and Historiography for Strengthening Connectedness, *Senri Ethnological Studies: Migration and the Remaking of Ethnic/Micro-Regional Connectedness*, 査読有り、93巻、2016年、pp.15-48.

園田節子、「ひと」の地理的拡散をいかに有機的に捉えるか 近現代華僑の歴史実証研究より、『立命館言語文化研究』、査読無し、27巻、2016年、pp.249-50.

園田節子、郷里と世界 中国広東省の僑郷から郷土史を考える、『挟間史談』、査読無し、4巻、2014年、pp.123-130.

園田節子、「内側」からの歴史の模索 カナダおよびカリブ海地域華僑史研究の発展と運動、『華僑華人研究』、査読有り、11巻、2014年、pp.60-66, 84-85.

[学会発表](計13件)

SONODA, Setsuko, At the Edge of Empires: the Modern Nation, Ex-Colonial Milieu and Transnationalism of the Chinese in Port of Spain, Trinidad, from the 1930s to the 1960s, Global & Imperial History Seminar, Oxford Centre for Global History, Faculty of History, University of Oxford, 2017年2月17日, 「Oxford (United Kingdom)」

SONODA, Setsuko, At the Edge of the Modern Chinese Nation and Ex-Colonial Milieu, School of East Asian Studies Departmental Seminar, University of Sheffield, 2016年10月31日, 「Sheffield (United Kingdom)」

SONODA, Setsuko, China's Transnational Politics and Disputes among the Overseas Chinese in Port of Spain, Trinidad 1930-1970, Joint East Asian Studies Conference 2016, 2016年9月9日, 「London (United Kingdom)」

園田節子、太平洋を越える20世紀北米華商の商業ネットワークと政治チャネル、日本人の国際移動研究会、2016年2月20日、「京都私学会館2F204会議室(京都府・京都市)」

園田節子、冷戦期北米華商のトランスナショナルな政治回路と諸活動：バンクーバー華商・国民党僑務委員李日如を例に、神戸華僑華人研究会国際シンポジウム「戦後・冷戦期における東アジアの華僑社会」、2016年1月30日、「中華会館東亜ホール(兵庫県・神戸市)」

SONODA, Setsuko, "History of

Raising Self-Awareness and Historiography for Strengthening Connectedness,” Talk at the Institute for Diaspora Research & Engagement, Simon Fraser University, 2015年10月19日, 「Vancouver (Canada)」

園田節子、アメリカにおける清国留学生の生活、神戸華僑華人研究会第158回例会・神戸華僑歴史博物館特別例会、2015年9月26日、「中華総商会ビル10階会議室(兵庫県・神戸市)」

SONODA, Setsuko, Discussant, International Workshop “Complexity of Innovative Colonial Milieu: Socio-Economic Transformation in the Colonial Ports and Their Hinterlands in Modern Asia, 1850s-1940s”, 2015年8月10日, 「Institute for Research in the Humanities, Kyoto University (Kyoto City, Kyoto-Fu)」

園田節子、世界史の中の華僑・華人「移民」「マイノリティ」の何を高等教育で伝えるか、大阪大学歴史教育研究会第87回例会、2015年5月16日、「大阪大学豊中キャンパス(大阪府・豊中市)」

園田節子、カリブ海地域の中国移民史の可能性：華僑華人研究の視座から他地域をみる、上智大学イペロアメリカ研究所「アジア太平洋時代のラテンアメリカ」2014年度第2回研究会、2015年1月10日、「上智大学イペロアメリカ研究所(東京都・千代田区)」

SONODA, Setsuko, The Two-layer Structure of the Chinese Community in Port of Spain, Trinidad, 1930s-1970, International Society for the Study of Chinese Overseas conference, University of Panama, 2014年8月8日, 「Panama City (Panama)」

園田節子、大会コメンテーター、日本移民学会2014年年次大会大会企画シンポジウム「移民の比較研究から何が見えるのか」、2014年6月28日「和歌山大学(和歌山県・和歌山市)」

園田節子、カリブ海地域華僑のコミュニティと僑務の展開 1930-60年代のトリニダード・トバゴを例に、石川禎浩共同研究班 現代中国文化の深層構造、2014年6月27日、「京都大学人文科学研究所(京都府・京都市)」

〔図書〕(計5件)

吉原和男(主編) 相沢伸広、上田貴子、菊池一隆、篠崎香織、柴田佳子、杉村美紀、瀬川昌久、芹澤知広、曾士才、園田節子、谷垣真理子、陳東華、津田浩司、三尾裕子、山本須美子他、『華僑華人の事典』、東京：丸善出版、2017年、総ページ608(印刷中)

呉宏明、高橋晋一(編) 安井三吉、洲脇

一郎、陳於華、陳來幸、岡野翔太、王維、張玉玲、関廣佳、園田節子、藍璞他、東京：松籟社、『南京町と神戸華僑』、2015年、総ページ312(pp.255-266.)

中国研究所(編) 園田節子、高原明生、川島真、荒井利明、田中修、加々美光行、茅原郁生、佐々木智弘、田中信行、弓野正宏、佐々木信彰、倉田徹、松金公正、趙宏偉、岡田充他、東京：毎日新聞社、『中国年鑑2015』、2015年、総ページ504(pp.101-103.)

中国研究所(編) 園田節子、伊藤一彦、鈴木隆、森保裕、王京濱、田中信行、青山瑠妙、佐々木智弘、弓野正宏、倉田徹、松金公正、趙宏偉、岡田充、三船恵美、岡村志嘉子他、東京：毎日新聞社、『中国年鑑2014』、2014年、総ページ503(pp.89-91.)

張応龍(主編) 園田節子、章深、李慶新、何思兵、陳來幸、楊錫銘、黃建淳、李振武、趨振環、李愛慧、朱崇科、宋伍強、譚雅倫、肖文評、陳景熙、孔結群、歐俊勇、游俊豪、鄭德華他、広州：広東人民出版社、『広東華僑与中外関係』、2014年、総ページ383(pp.58-76.)

〔産業財産権〕

出願状況(計0件)

取得状況(計0件)

〔その他〕

ホームページ等

国立民族学博物館学術情報リポジトリ

‘History of Raising Self-Awareness and Historiography for Strengthening Connectedness : The Vancouver Chinese in Multicultural Canada’

https://minpaku.repo.nii.ac.jp/index.php?active_action=repository_view_main_item_detail&page_id=13&block_id=21&item_id=4935&item_no=1

6. 研究組織

(1) 研究代表者

園田 節子 (SONODA, Setsuko)

兵庫県立大学・経済学部経済研究科・教授
研究者番号：60367133

(2) 研究分担者

なし

(3) 連携研究者

なし

(4) 研究協力者

なし